

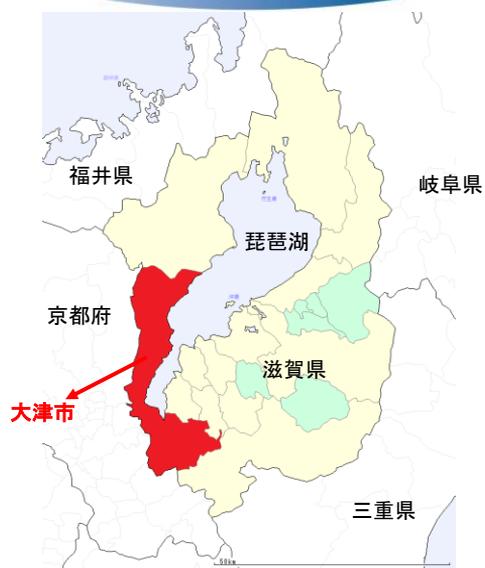
# LINEを利用したいじめ防止対策事業

～いじめから子どもを守るために～

いじめ対策推進室

## 大津市の概要

面積 464.51km<sup>2</sup>  
人口 342,847人  
世帯数 147,833世帯



(平成30年10月1日現在)

## 市立中学校の設置状況

中学校数：18校

全生徒数：8,771人

教職員数：618人

(最大規模校)

全生徒数：1,006人

全学級数：33学級

(最小規模校)

全生徒数：12人

全学級数：3学級



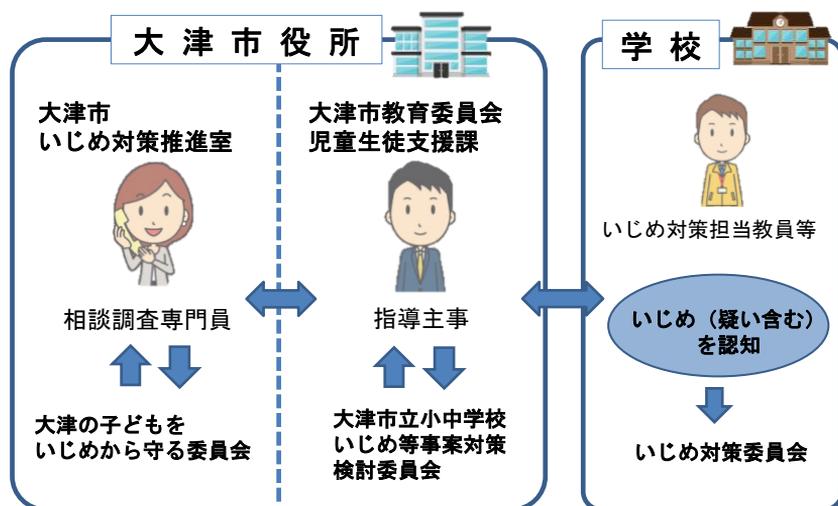
※平成30年度大津市教育要覧より作成（生徒数等は平成30年5月1日時点の人数）

3

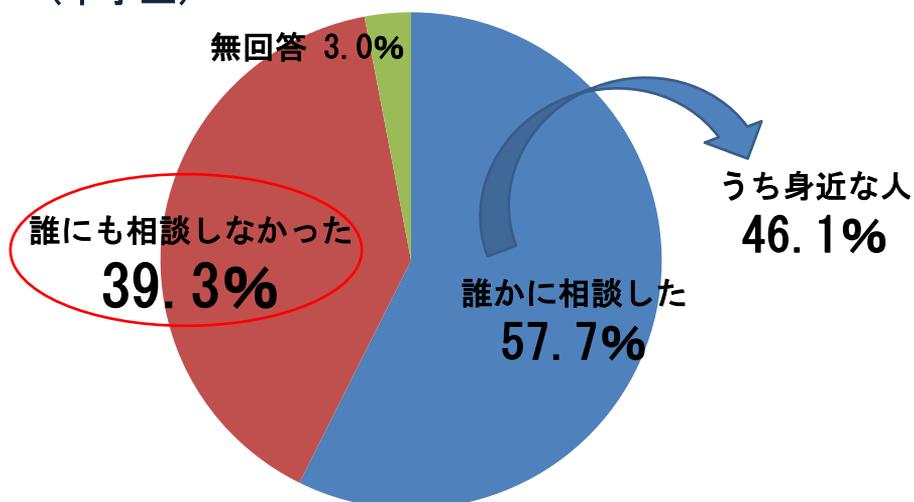
- 1 事業実施の経緯、目的
- 2 事業概要
- 3 相談受付状況
- 4 LINE相談の特徴等
- 5 LINE相談の課題と対応

4

## 大津市のいじめ対策体制



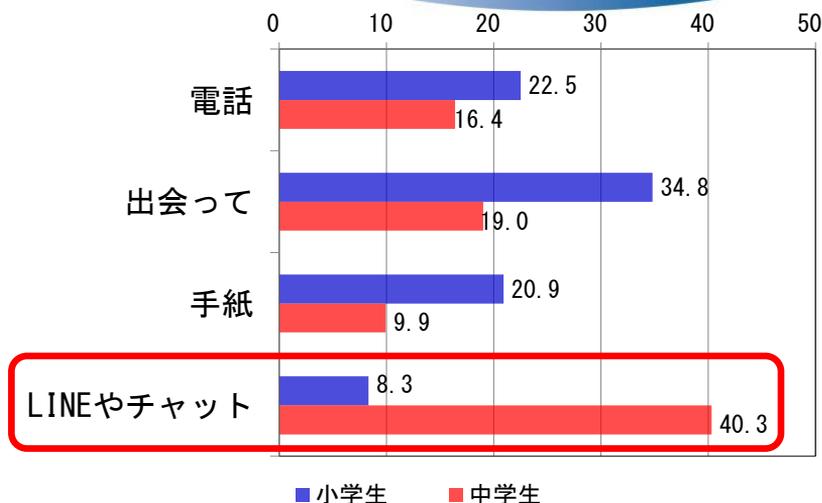
## 嫌なことをされた時相談したかどうか (中学生)



【前の学年のとき、嫌なことをされたことがある人】に対して【まず誰に相談しましたか?】に対する回答  
※平成30年度大津市いじめの防止に関する行動計画モニタリングアンケート調査より

1 事業実施の経緯、目的

## 相談しやすい相談窓口 (%)



【いじめについて相談するとしたら、どのような相談窓口が一番相談しやすいと思いますか？】  
※平成30年度大津市いじめの防止に関する行動計画モニタリングアンケート調査より

7

1 事業実施の経緯、目的

## 事業実施の目的



既存の相談窓口に加え、LINEでもいじめ等に関する相談受付を行うことで、相談窓口の選択肢を増やし、気軽に相談できる環境を整備する。

※イメージ画像は実際の相談でのやりとりではありません

8

### (1) 実施期間・日時

平成29年度 平成29年11月～平成30年3月  
平成30年度 平成30年4月～平成31年3月（通年実施）  
平日（月～金）17時～21時（受付20時30分まで）

### (2) 対象者

大津市立中学校の生徒 約9,000名  
（平成29年11月～ 3校 約2,500名 平成29年12月～ 順次18校に拡大）

### (3) 相談員の体制

常時1名配置  
（広報物配布時やメッセージ送信時は2名配置）

### (4) 相談員の資格

- 心理カウンセラー資格を有し、2年以上、心理カウンセラーとして相談業務経験を有する者
- 心理カウンセラー資格を有し、40時間以上、国または地方公共団体が実施するLINEを利用したいじめ等に関する相談対応業務の経験を有する者
- 心理学についての大学院修士課程を修了した者、もしくは在籍中の者で、40時間以上、国または地方公共団体が実施するLINEを利用したいじめ等に関する相談対応業務の経験を有する者

## (5) システムの概要

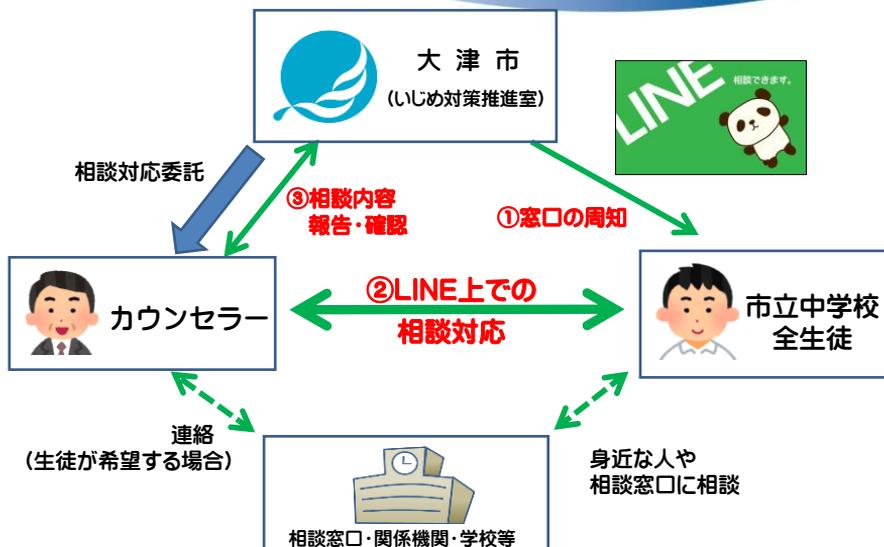
KANAMETO (カナメト)

(LINEなどチャットでのやり取りを円滑に行うことをサポートするシステム)

## (6) 費用 (平成30年度)

- ・ 相談対応にかかる委託費  
約1,900万円 (精算後、約1,600万円)
- ・ 検証にかかる会議費  
約120万円 (6回)  
(報酬・交通費 大学教授、いじめ対策関連NPO等10名程度)

## LINE相談の概要図



## 2 事業概要

### LINE相談のイメージ



市役所でも、リアルタイムで確認でき、緊急時の対応する

13

## 3 相談受付状況

### (1) 対応回数等

	平成29年度 (11月～3月)	平成30年度※ (4月～1月)	計
延べ対応回数	67回	404回	471回
対応人数	37人	162人	199人
友だち登録数	129人	234人	363人

※平成30年度の数値は、集計中の暫定値

14

### 3 相談受付状況

#### (2) 相談者の種別 (平成30年度)

性別	男性	女性	不明	計
人数	9人	75人	78人	162人
割合	5.6%	46.3%	48.1%	100.0%

学年	1年	2年	3年	不明・その他	計
人数	31人	20人	17人	94人	162人
割合	19.1%	12.3%	10.5%	58.0%	100.0%

※数値は、集計中の暫定値

15

### 3 相談受付状況

#### (3) 相談内容内訳

	平成29年度 (11月～3月)	平成30年度※ (4月～1月)	計
いじめ	11回	23回	34回
その他	56回	404回	460回
両方	—	68回	68回

※平成30年度の数値は、集計中の暫定値

16

3 相談受付状況

(4) 相談内容 (その他)

相談内容	回数	割合
①友人・先輩後輩等との関係 (いじめ以外)	66	17.4%
②勉強 (進路含む)	28	7.4%
③学校の先生、学校の行事について	36	9.5%
④家族について	15	3.9%
⑤恋愛相談	23	6.1%
⑥心身の健康・保健について	8	2.1%
⑦日常生活に関すること	11	2.9%
⑧自分のありようや生き方について	6	1.6%
⑨いたずら	1	0.3%
⑩呼びかける (発信) も応答なし	107	28.2%
⑪その他	79	20.8%

17

3 相談受付状況

(5) 電話、手紙、面談の相談との比較

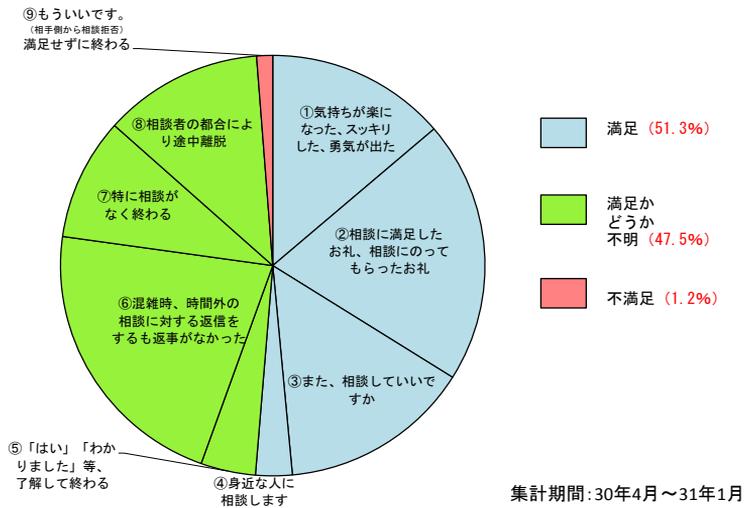
	LINE相談 (4月~1月)	電話等相談※ (4月~1月)	備考
相談回数	404回	68回	約6倍
相談者数	162人	28人	約6倍

※電話等相談は中学生本人からの相談数  
(保護者から自分の子ども(中学生)のことに関する相談は除く)

18

### 3 相談受付状況

## (6) 相談が終わる際の生徒の反応



19

### 4 LINE相談の特徴等

## LINEの相談窓口としての特徴

- ① 中学生にとって相談のハードルが低く、気軽に相談できると考えられる。
- ② 早い段階で相談していると考えられる。
- ③ テキストでも心理援助ができる可能性がある。
  - ・ 悩みを文字にすることによるメリットも
  - ・ 「質問力」等LINE特有の技術が求められる。

20

## LINE相談の位置づけ

- ① 誰にも相談できなかった子どもも含め、気軽に、早期に、そして広く受け止められる窓口とする。
- ② 相談者自身による問題・気持ちの整理を支援する。
- ③ 必要に応じ、適切な相談先につなげる。

LINE相談＝入口の相談窓口

LINE相談だけではなく、多様な相談窓口で、子どもたちのSOSを受け止めることが必要

## LINE相談の課題

- ① 友だち登録者数の増加
- ② 相談概要の理解
- ③ LINE相談（外部委託）と電話相談（直営）との関係

## 今後の対応

- ① 広報・啓発の充実
- ② 検証会議等の公開
- ③ LINE相談技術習得のための研修

